

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21



2026 年 1 月 10 日 (土) 発刊

編集長 野々垣和宏

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨 Y M C A グローバルコミュニティセンター

☎055-235-8543 fax055-235-8553 Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	エドワード・オン(シンガポール)	「信念、愛、行動」 (Faith, Love, Action)
アジア太平洋地域会長	田上 正(熊本むさし)	「信念と愛を持って行動しよう！」 (Act now with faith and love!)
東日本区理事	山下 真(十勝)	「ワイズのらしさ再発見」 (Rediscovering Y's Uniqueness)
あずさ部部长	山口 直樹 (東京武蔵野多摩)	「垣根を低くし、活発な活動を」
甲府21クラブ会長	水越 正高	「35周年で育む会員の絆と、青少年の未来を創るクラブへ」 (Connecting the Next Generation)

甲府21ワイズメンズクラブ

2026 年 1 月会報

今月の強調テーマ

EF・JEF

今
月
の
聖
句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 2 章 4

「わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした」

選：功刀 弘

1 月 巻頭言



「新しい年に向けて、
もう一度“つながり”を見つめ直す」

甲府 21 ワイズメンズクラブ 会長 水越正高

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中はクラブ活動に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年も変わらぬご厚誼のほど、よろしくお願い申し上げます。

昨年 12 月には、恒例のクリスマス例会が開催され、一年の締めくくりとして大変心温まる時間を過ごすことができました。例会は杉田さんの独唱により厳かに幕を開け、美しい歌声が会場を満たし、特別なひとときを演出してくれました。また、岡牧師から語られた「一致団結することの大切さ」は、まさに私たちのクラブ運営にも通じるもので

あり、多くの会員が深くうなずきながら耳を傾けていました。

さらに、プロマジシャン水野さんによるマジックショーでは、参加型の演出もあり、会場には驚きと笑い声が広がりました。最後のくじ引き大会では景品の交換や会話が弾み、皆さまの笑顔が集う大変賑やかな時間となりました。ここ数か月間、多くの事業に力を尽くしてくださった会員の皆さまへの感謝を込めて企画した例会でしたので、少しでも心に残る思い出となっていれば幸いです。そして新年を迎え、いよいよ私たちは「35 周年」という大きな節目に向けた下期へと歩みを進めます。ここからの半年は、外へ広げてきた活動から一歩立ち返り、クラブ内部の絆を深め、互いを支え合う関係を改めて育む期間にしたいと考えています。キャビネットでも、35 周年記念旅行の準備を本格化させ、会員の皆さまが安心して、そして楽しみながら参加できる企画づくりに努めてまいります。

前半戦は、数多くの行事が折り重なり、息をつく暇もないほどの毎日だったかもしれません。しかし、その忙しさの中でも、子どもたちやユースと共に過ごした時間が確かな手応えとなり、「青少年の未来を創るクラブ」という主題を具現化する半年でもありました。後半は少し落ち着きを取り戻しながらも、希望と楽しさを大切にクラブ運営を目指してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。皆さまの一年が、健やかで実り多きものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

12月クリスマス例会報告

第1例会（クリスマス例会）報告

書記 佐藤 利之

- ・日時 2025年12月6日（火）17:00～
- ・会場 山梨YMCA3F ベテル

2025年12月の第1例会がクリスマス例会として山梨YMCA3Fで開催されました。メネット様、ゲスト様もたくさんご出席くださり総勢45名での会でした。

□第1部「礼拝」は、小澤智之ワイズの司会にて行われました。讃美歌を杉田ワイズの伴奏のもと歌い、岡牧師に説教をいただきました。クリスマスについて非常に興味深く精神が穏やかになるお話をいただきました。最後に杉田ワイズの素晴らしい歌声のソプラノ独唱を披露していただきました。

□第2部「例会」が行われました。会長に今年を総括していただき例年以上にイベント盛りだくさんな前期で充実した活動が出来たと再確認できました。

□第3部「祝会」が盛大に行われました。山縣ワイズの感謝の祈りを聞かせていただき、荻野次期会長の乾杯の挨拶でスタートしました。とても豪華なお弁当でアルコールも進み水野さんによるマジックショーがスタートしました。30分間余すことなくプロのマジックを披露していただき不思議な現象の数々に食い入るように皆様楽しんでらっしゃいました。感想でもマジック楽しかったというお声が多かったです。最後にお楽しみ抽選会が行われ絶妙なラインナップで皆様楽しんハラハラドキドキ楽しんでいただけました。準備に時間と労力を費やしていただいたキャビネットの皆様本当にお疲れさまでした。

聖句について～功刀 弘～

解題

「パウロがコリントの信徒への手紙に記している一節です。パウロはコリントの信徒への手紙に溢れるほどの愛を神様から受けている思いを吐露しています。ワイズの皆様のご活躍の中にそのような愛を受けている思いからの活動があることを感じるのです」

「EF (Endowment Fund)」

「JEF (Japan East Y's Men's Fund)」

(どちらもワイズ発展のための基金)

感謝



感謝

沼田農場として、YMCA 子どもたちとワイズに農作業体験をさせてくださると共に、日頃より畑の手入れ（水やり、施肥など）を行ってくださったことに、厚く感謝を申し上げます。2025年12月5日 ポインセチアをお届けに行きました。（赤根）

＜クラブ員への感謝状＞

2025年水越年度上期において、クラブ活動に対して大変なるご協力を賜った3人の方に感謝状をお渡し致しました。

1. 佐藤 重良さん バザー開催に際して、沼田農場で収穫した大根などの販売を企画し成功したこと。3ヶ月におよぶきめ細かな計画と実践に対して感謝致します。
2. 興水 順雄さん 今年もバザー開催にあたりヴァンフォーレ甲府のテントを大量にお手配頂き、会場の賑わいが一段と華やかになりました。来年のヴァンフォーレの活躍に期待しながら、感謝を申し上げます。
3. 飯田 剛さん 長野・安曇野産コシヒカリを我々に紹介してくれるとともに、合計800キロのお米を運んでくださいました。バザーでの大成功を感謝いたします。



<1月の誕生者>

<敬称略>

<メ>

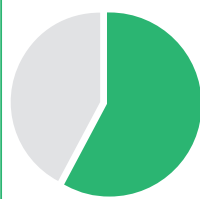
小澤 公紀 1/1 末木 咲子 1/7
江口 英雄 1/16 鈴木美穂子 1/26

<メネット>

清藤 和子 1/11 山口 茜 1/15



<12月例会出席者>



62.2%

会員数 45名
第一例会出席者 28名
ゲスト出席者 名
メネット 名
総出席者数 27名
出席率(会員のみのみ) 62.2%

12月会計報告

会計 山口 了

[会計報告]

2025年12月末現在



項目	ニコニコ	バザー	トータル
目標値	250,000	100,000	350,000
12月の合計	35,700	0	35,700
12月末迄累計	153,279	100,000	253,279
達成率	61.3%	100%	72.4%

今後の予定

- ◆1月10日(土曜) 新年合同例会(第一例会)
受付開始 10:30 スタート 11時~14時
場所: 魚吉会館 富士吉田市旭4-5-13
参加費: 7000円
- ◆1月12日(月・祝) 集合・準備 8時
スタート 10:00~15:00
場所: よっちゃんばれ広場
- ◆1月20日(火) 第2例会 18時半
- ◆1月25日(日) ナイトフォーラム

緊急寄稿：不登校問題について オンライン・Zoom で開催

来る1月25日午後8時～9時まで、ワイズメンズクラブ東日本区恒例ワイズ・ナイトフォーラムで、山梨 YMCA 土肥先生が登壇なさいます。土肥先生よりワイズに向けてメッセージを頂きました。



YMCA として社会課題にどう取り組むか 「不登校問題を考える」

山梨 YMCA 教育心理研究所所長 土肥 満

皆さま、「不登校問題」をご存じでしょうか。不登校児童生徒数が毎年過去最多を更新しており、テレビや新聞で取り上げられることも多くあります。

2023 年度に文部科学省が行った調査では、小・中学生の内、約 35 万人が不登校（年間 30 日以上欠席）に陥っていて、12 年連続で増加しているという結果でした。率にして、小学生 2.3%、中学生 6.8%。中学校ではとても深刻な状態です。

さらに別の調査では、この他に約 1 割の児童生徒が「不登校傾向」と言われており、学校に登校するが、別室で過ごしたり、「学校が辛い、行きたくない」と感じたりしています。

私はかつて学校教育に携わっていた者ですが、現場のときから

現在（山梨 YMCA 7 年目）に至るまで、大きな課題となっています。

コロナ禍の影響も大きかったですが、それが収まりつつある現在でも、変わらず増えているのは、タイトルにも掲げましたが、大きな「社会課題」の一つであると考えています。

この他にも、子どもをめぐる深刻な課題が多々あります。ぜひ、未来を担う子どもたちの状況を皆さんも一緒に考えていただきたく筆を執りました。

山梨 YMCA では、2021 年に教育心理研究所を設置し高校生のこころの支援を始めました、また、2025 年 3 月に「フリースクール『わいわいクラブ』」を開設しました。これは、学校生活に苦戦している子どもたちの居場所づくりの取り組みです。現在、個性豊かな子どもたちが通ってきてくれています。

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区でも、「不登校問題」に焦点を当てた活動を始めてくださいました。山梨 YMCA も加えていただき、全国の仲間や関係者とつながることができうれしく思います。

1 月 25 日（日）20：00 から行われる「ワイズ・ナイトフォーラム」では、この「不登校問題」を取り上げることになり、私が、前述のタイトルで「不登校の現状と山梨 YMCA の取り組み」についてお話しすることになっています。オンラインなので、ぜひ多くの方にご参加いただき、課題を共有してくださればうれしいです

第 1 回 2026 年 1 月 25 日（日曜日）20 時～21 時 オンライン・Zoom で開催

不登校問題：数年前まで小学校校長をしていた土肥先生は、退職後に山梨 YMCA で不登校の子どもたちへの活動を始めました。その取り組みから感じることなどをお話いただきます。

参加アドレス

<https://us06web.zoom.us/j/81431587157?pwd=WvGNjtxLNeqGyXicaa205qnH755Gr4.1>

ミーティング ID: 814 3158 7157 パスコード: 647918

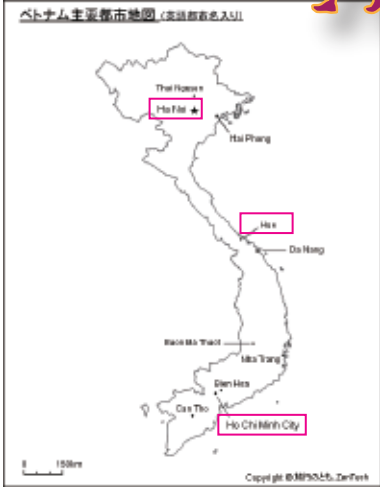


大人な徘徊 第7話

ベトナム (2017年3月15日～26日)



葉袋 勝



日	徘徊場所	宿泊地
15-17	成田、ハノイ	ハノイ
18-20	ハノイ、フエ	フエ
20-22	フエ、ダナン	ダナン
23-25	ダナン、ホーチミン	ホーチミン
26	ホーチミン、成田	

ベトナム戦争は、私達世代に大きく影響を与えました。訪れた、ダナン、サイゴン（ホーチミン）は、戦乱の地としてニュースによく登場し記憶に焼き付けられた地名です。この地を訪れることは、1960年から1970年代にかけての変動をじかに感じられるのではと期待していたのですが、今のベトナムは、経済発展に忙しくあのベトナム戦争は大昔の事実として片隅に追いやられている様に一介の徘徊者には見られました。しかし、フランスや日本に対する抵抗運動を含め、ベトナム戦争の資料館などの訪問は、ベトナムの人々の底力を感じることが出来、まだまだ発展の大きな糊代が感じられました。

熱帯のホーチミンやダナンは、まだ寒い日本からの訪問者を温かく迎えてくれ、ダナンの海岸での徘徊やメコン川の舟遊びを楽しく過ごすことが出来ました。ホーチミンの商店

やレストランのなかには、宗主国フランス文化の匂いを感じさせる所が数多く見られました。

歩行数：229,360 / 19,113

歩行距離：171.5 / 14.3Km



フエ王宮殿（フエ）



トラの檻：戦争博物館（ハノイ）



メコン川クルーズ？（ホーチミン）

ペンリレー

「共生社会のために」

志村 直毅

皆様、2026年のスタートをお健やかに迎えのものと存じます。

昨今、メディアや選挙などで「外国人問題」が頻繁に取り上げられるようになってきました。その文脈は、あたかも外国人の方々に対する不安や批判の声があふれているかのようです。一方で、私たちの身の回りを見渡せば、職場や地域、学校など、すでに多くの外国人の方々と共に生活している現実があります。

私自身、様々な活動や仕事などで外国人の方々と接する機会があり、その中で感じるのは、彼らもまた、私たちと同じように働き、学び、悩み、家族を大切にしながら暮らしているという、ごく当たり前の事実です。

言葉や文化の違いからすれ違いが生まれることもあるでしょうが、その多くは「知らない」ことから来ているように思います。

国が制度やルールを整備することはもちろん重要です。他の国と比較して、必要な規制やしくみを新たに設けることも大切です。また、日本にいれば日本の法や制度を遵守する必要がありますし、これは日本人にとっても当然のことです。でも、法や制度だけで共生社会が実現できるわけではなく、挨拶を交わす、声をかける、違いを理解し合う。そうした小さな関わりから互いを知り合い、関係を築いていくことで、外国人との共生の意識がだんだん醸成されていくのだと思います。

政府が行う外交とはまた違った、いわば人と人との「草の根」のような関係や、生活の中での外国人の方々との関わり合いが、問題解決や平和な地域社会をつくっていく「礎」になるのではないのでしょうか。

人種や年齢、性別、宗教などを超えて、人と人をつなぐことを大切にしている YMCA の原点も、きっと「目の前の一人の人間」と向き合うことにあるのだと思います。

観光、労働、留学、そして移住など、今後はさらに外国人の方々が増えていくことでしょう。

日本が開かれた国であるためには、バランスの取れたしくみ（法や制度）とともに、私たちの心（意識）も開かれていくことが大切だなと感じます。

一年の始まりに思いを新たにしつつ、これからもワイズメンズクラブの活動に参加し、微力ながら共生社会の実現に努めていこうと思います。



2003年（約22年前）に来県した「ベアーテ・シロタ・ゴードン」と。ベアーテさんは、1946年の日本国憲法制定に関わった人物として知られています。

◆YMCA便り◆

「新年おめでとうございます」

総主事 中田 純子

新しい年を迎えるにあたり、皆さまに心からのごあいさつを申し上げます。

2025年は、山梨・長野のワイズメンズクラブが共に集う機会が多く与えられ、地域を越えて絆を深めた一年でした。互いの活動を知り、思いを語り合う中で、奉仕の喜びや、つながりの力を改めて感じる事ができました。ご尽力くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

山梨 YMCA は、「すべての人が尊重され、共に生きる社会」をめざして活動しています。その根底にあるのは、人と人との出会いの中で“何かがみつかる”という希望です。子どもたちの笑顔、新しい仲間の思い、地域の課題、そして自分自身の中にある新たな力。そうした一つひとつの発見が、人生を豊かにし、社会を少しずつ“よくしていく”原動力になると信じています。

2026年も、「みつかる。つながる。よくなっていく。」を合言葉に、YMCAの活動を進めてまいります。山梨、長野、あずさ部、そして東日本区の仲間とともに、協働の輪をさらに広げ、地域の枠を越えた交流と学びを深めていきたいと願っています。つながりの中から生まれるあたたかな力が、子どもや若者たちの未来を支える大きな力となっていくことでしょう。

本年も、「新年合同例会」や「奉仕活動」、「チャリティーバザー」など、皆さまと共に歩む多くの行事が続きます。どの場においても、思いやりと感謝の心を大切に、喜びを分かち合えるひとときとなりますように。

2026年が、皆さまにとって新たな出会いと希望に満ちた一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。